

2012年エフネット選抜タイ遠征

肥沼 太一

今回のタイ遠征、**Diavolo** を離れてフットサルをすること、初めての海外だったこと、また、練習会に1度も参加できずにチームに馴染めるのかなど不安ばかりでした。しかし、チームの雰囲気が高く、上級生が積極的にコミュニケーションをとってくれたおかげでそんな不安はすぐに消え、このチームでタイリーガーを相手に勝ちたいと思うことができました。自分の中での目標は、小さくならず大きなプレーをすること、気持ちで相手に負けないこと、結果を残すことでした。結果を残すためにも高い位置でボールを受け、シュートを積極的に打っていこうと考えていましたが、振り返ってみると、気持ちの面で負けていたとは思いませんが、結果は残せていませんし、高い位置での自分らしさはあまり出せなかったように感じます。自分の結果、プレーの質というところに注目すると、とても不満が残る内容でした。しかし、変に上手くいって結果が出てしまうより、自分の未熟さ、下手くそだということを改めて感じることは良かったと思います。また、同じチームに所属し **Diavolo** でも中心となっている玄さんが環境が変化してもしっかりと結果を残しているのを見て、玄さんと自分の距離はまだまだあるなど考えさせられました。

実際タイリーガーと試合をしてみて、相手が本気でないのかもしれませんが、それほど相手がボールを持った時に恐怖を感じませんでした。しかし、球際での強さやボールを持った時の仕掛けをみせる姿勢は学ばなくてはならない点だと思います。また、現地での多少であるがあのアウェーな雰囲気は生まれて初めてのものだったので、すごくワクワクしました。この体験は日本ではなかなか味わうことのできないものであり、直接肌で感じたあの雰囲気は今回のタイ遠征のお土産のひとつです。1日目スラタニーFC、2日目バンコクFC、パチョムガル大学と計3試合することができました。結果は1分け2敗と試合に勝てなかったことは残念でしたが、この3試合を通して1年生の成長、チームとしての成長が感じられました。特に自分より下の学年である1年生の頑張りや、新しいものを吸収しようとする姿勢には驚かされ、自分のフットサルに対する姿勢を見直す機会を与えてもらうことができました。また、2日目に行ったミーティングは良い思い出です。みんなが自分の意見を言い合い、考えを共有するあの過程はとても気持ちの良いものでした。正直、自分が想像していたタイ遠征は高学年が多く、それに自分が必死に付いていって刺激を受けるというものでしたが、1年生が多い今回のタイ遠征もまた違った刺激をうけることのできる有意義なものだったと思います。

3日目には日本VSポルトガルを観戦することができ、日本フットサルの歴史に残る試合を生で観戦することができたのは本当に幸運だったと思います。前半は終始ポルトガルのペースであり、日本を応援しつつポルトガルのプレーに魅了されました。フェイクやボールコントロール技術の高さ、攻守の切り替えの早さなど学ぶ点だらけでしたが、レベルが高すぎてどこを参考にすれば良いか難しそうでした。しかし、攻守の切り替えは意識次第

で変わってくることであり、また、**Diavolo**でもチームの課題とされている部分なので、まずは攻守の切り替えを意識してチームでの練習に取り組んでいこうと思います。後半は逆に日本のペースが続きました。あまり良いことではないのかもしれませんが、プレーの内容を見て勉強するよりも日本を応援するのに必死になりすぎてしまいました。日本のパワープレーが効いてくると流れは完全に日本。前半あんなに余裕があったポルトガルの監督さんのあせった表情や落ち着きのない行動は今でも鮮明に覚えています。前半楽しそうにプレーしていたリカルジーニョもまた苦しそうに感じられました。この後半の試合展開から、試合での流れや雰囲気的重要性を認識することができました。流れに乗っていて心の状態が良い時は持っている力以上の力を発揮することができ、心の状態が悪い時は持っている力のこれっぽっちも発揮できない。力に差があっても、流れや雰囲気によってはその力の差は簡単に逆転する。特にチームスポーツでは雰囲気は重要なものだと思います。おそらく後半の日本は、良い緊張感の中に自分たちはやれるという自信を持ったポジティブなメンタル状態であったのではないのでしょうか。

タイ遠征に臨むうえで考えていたこと、現地での試合やポルトガル戦で感じたことなどを書いてきましたが、この遠征での大きな収穫は、4日間全てを通して感じた雰囲気とチャレンジする気持ちの大事さです。チームとして成長できたのも、日本がポルトガルを苦しめることができたのも、タイ遠征を振り返ってみて楽しかったなと思えるのも、良い雰囲気の中でチャレンジする気持ちを持ち続けられたからだだと思います。このことはチームに帰ってから最初に還元していかなければいけないことだと感じています。**Diavolo**の学生も社会人もああいっただ雰囲気の中で個人がどんどんチャレンジしていけば、より良いチームになるはずです。まずは自分がお手本になります。

先ほども書きましたが、今回の遠征での個人としての結果は目に余るものでした。この悔しさを忘れずに、また、タイに行ってフットサルをした経験が無駄にしないよう毎日の生活を見直し、フットサルに真摯に取り組んでいきたいです。もう2年生で、もうすぐ3年生、大学生でいられる時間もあとわずかなので、時間を大切に日々チャレンジしながら毎日の生活を送っていこうと決意しています。そして、来年またタイでフットサルができるチャンスがあるのなら参加しようと考えています。その時はちゃんと結果を残します。最後に、この遠征を通して、多くの人の協力のおかげでフットサルができていることを実感しました。これからは多くの人に感謝をしつつ成長していきたいと思います。金子さん、短い期間でありましたがお世話になりましたありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします。